

学校評価シート

<p><b>東海市立富木島中学校</b></p> <p>住所 東海市富木島町向イ27番地                  電話番号 052-603-2355 生徒数 683名                  校長名 加古 勲 23学級 (内 特支4)</p>		<p>○ <b>教育目標</b> 「学思行 相須ツ」「一人一切人 一切人一人」二人の郷土の偉人の教えを教育の基本理念とする。                  1 自ら学ぶ態度をとる 2 真心を行動で示す 3 進んで心身を鍛える</p> <p>○ <b>地域の特色</b> 校区3つのコミュニティが、それぞれ特色ある活動を展開している。地域の活動に生徒がボランティアとして参加できる環境を整え、地域行事を通して学校と地域が協働し、生徒の健全育成に努めている。</p>	資料等				
中期目標	今年度の目標	評価方法 (アンケート項目)	結果の分析	課題と対応策	学校関係者評価 【実施日】令和7年2月6日	来年度の改善策 (誰が何をどうする)	
<p><b>自学</b> ・生徒一人一人が有用感・成就感を味わえるよう規律ある授業の継続と基礎学力の定着を図る。</p>	<p>○主体的・対話的で深い学びが成立する授業への転換を図る。                  ・ICTを活用し、級友との関わりを大切にしたい授業を展開する。</p> <p>○自学の習慣を育成する。                  ・授業との向き合い方や家庭学習を充実させる。</p>	<p>○アンケート結果から評価項目                  生徒:20～45                  教師:1, 2, 7, 14, 15, 16, 17, 19                  保護者:2, 10</p>	<p>アンケートでは、90%以上の生徒が「学習課題を理解し、よく考え、わかろうと努力をしている」、「しっかり話し合いや実験等に参加している」と答えた。また、80%以上の教職員が「教材研究を通して、日々専門職としての資質と指導力の向上に努めている」、と答えた。生徒・教職員ともに昨年度に引き続き高いポイントを維持している。教職員は生徒に、分かりやすい授業を日々心がけ、生徒は意欲的に授業に参加していると考えられる。また、保護者の「学校は、わかりやすい授業をしている」の設問に対して肯定的な回答が増えている。学校として落ち着いた学習環境が整っている状況と考えられる。</p>	<p>アンケート結果から、多くの教師がわかりやすい授業を心がけ、生徒も意欲的に参加していることが分かる。落ち着いた学習環境の中で教師と生徒がともに学び続ける姿勢がその結果につながっていると考えられる。しかしながら、授業が楽しく分かりやすいという設問に対して、否定的な回答が1割程度あるのも現実である。生徒の教科ごとの得手不得手、学力分布の二極化等が考えられるが、今以上に楽しく授業を心がけ、小さな「分かった」を積み上げることで自信をつけさせ基礎学力の定着を図っていききたい。そのために、現状に満足せず、常に学び続ける教師を目指して、校内研修を中心に力量向上に取り組んでいきたい。</p>	<p>最近の富木島中学校は本当に落ち着いていると感じる。生徒や教職員のアンケート結果からも、学校が落ち着いた学習環境にあることが分かる。今後も、ICTなどを上手に活用してわかりやすい授業を行い、楽しい学校をつくってほしい。保護者の考え方には、相当な幅があり一つ一つ対応をせまられる先生方は大変だと思う。先生方が元氣なこと子どもたちにとって一番である。健康で笑顔を大切に子どもたちの前に立ち続けてほしい。学習を進めてほしい。</p>	<p>教務主任・現職主任を中心に、現職教育において、重点目標を明確化し、授業の目的を達成するための生徒が主体的に活動できる場の設定、ICTの効果的な活用や情報モラル教育等に取り組んでいく。また校内研修の機会を計画的に設定して現職教育に取り組んでいきたい。また、学校・学年たより等を通じて進路情報や学習に関する情報を発信していきたい。</p>	アンケート調査用紙
<p><b>真心</b> ・集団の中で、社会的自立をめざして人間関係づくりに主眼をおいた教育活動を進める。</p>	<p>○道徳性を育むに資する道徳の授業を展開する。                  ・道徳的価値について議論できる授業を実践する。</p> <p>○集団生活を送る上で大切にしたい心(思いやり、礼儀、責任等)を育む。                  ・日々の係活動・当番活動やボランティア活動に積極的に取り組ませる。</p>	<p>○アンケート結果から評価項目                  生徒:3, 4, 5, 7, 9, 15, 17, 18, 44                  教師:8, 20, 21, 22, 23, 24, 25, 28                  保護者:5, 11, 12, 13, 14                  地域:4, 7</p>	<p>アンケート結果から、生徒・教師・保護者について、ほとんどの項目で前年度と同様に高い水準の回答が多い。特に、生徒アンケート17・18「困ったときに相談できる先生がいる」「相談するとすぐに対応してくれる」でより肯定的な回答が増加しており、生徒・教師・保護者の信頼関係が良好であることとの現れと推察できる。また、教師「道徳の授業の指導方法の改善に努めている」のポイントも上昇し、意識的に授業改善を試みていることが分かる。しかし、教師・保護者・地域のアンケートから「生徒は社会や学校のルールを守って生活している」、に関する項目で肯定的な意見が前年度を下回っている。校則、交通ルール等、守れない生徒が一定数いることが考えられる。</p>	<p>生徒・教師・保護者のアンケートからは関係が良好に見えても、現状に満足せず、常によりよい方向を目指していききたい。                  道徳の時間を一層充実させるだけでなく、学校生活のあらゆる場面で相手の気持ちを考えた行動や場に応じた対応等、教え込むのではなく生徒自らが考え気づき行動できるような働きかけを行いたい。同時に、家庭への啓発等、地域への情報発信等も行っていきたい。生徒の命に関わる交通ルールの遵守等についても、指導していく。</p>	<p>地域の街頭パトロールをしても、中学生の悪い話は聞かない。生徒たちは真面目に生活していると思う。評議員会の話題の中でも下校時について話が合ったが、生徒よりも大人の方が気になることもある。大人が子ども達の前で手本となる存在でありたい。                  今後も、その時々でマナー等について、生徒達に話をしてあげてほしい。</p>	<p>教務主任、道徳教育推進教師を中心に、道徳の授業の計画を改めて見直し、学校行事や生徒指導と関連付けながら、タイムリーに行うことができるよう柔軟に対応していく。生徒1人1人に目的をしっかりと理解させるとともに、日頃から意識させ、授業だけでなく普段の学校生活や日常生活において道徳心を育てていく。また、学校だよりやホームページ等で学校の様子を発信していく。</p>	アンケート調査用紙
<p><b>鍛錬</b> ・進んで心身を鍛える生徒を目指し、粘り強さを育てる。</p>	<p>○部活動や係活動に継続的に取り組ませ、粘り強さを培う。                  ・目標をもたせ、活動への参加を促す。</p> <p>○「認める」「ほめる(支える)」「励ます」関わりを通して、たくましさ育てる。                  ・生徒指導の3機能、「共感的な人間関係」「自己決定の機会の提供」「自己存在感の育成」を意識して指導する。</p>	<p>○アンケート結果から評価項目                  生徒:8, 11                  教師:7, 26                  保護者:3, 4</p>	<p>アンケートの生徒、教師、保護者ともに生徒の部活動への参加や自主性を育てる取組に関する項目では、昨年度と大きな差は見られず比較的良好だといえる。生徒の健康意識「食事や運動、睡眠時間の確保など、健康を考えた生活を心がけている」という項目でも、肯定的な回答(75%)が多い。しかし、健康を考えた生活をできておらず体調を崩す生徒も一定数存在する。成長期の生徒達には、生活の基盤となる健康について更に意識させたい。保護者の「部活動の顧問は熱心に教えてくれる」の項目について、肯定的な意見が増えている。部活動について活動時間の削減、活動日数の制限がある中、生徒とともに熱心に活動する姿勢が伝わったと考えられる。</p>	<p>生徒が活動するスポーツの選択肢は、部活動に限らず、社会体育など多岐にわたる。これから部活動の地域移行が加速していくと、さらに多様な取り組みが出てくると思われる。今でも、学校外の活動には制限がないため、長時間練習に励み、疲れた状態で登校する生徒もいる。一人一人を認め、大切にして健康意識をさらに向上させたい。部活動についても来年度9月より大幅に縮小されることが決まっている。限られた時間の中で、目的意識を持って取り組むよう指導していく。</p>	<p>他市町などの取組も聞いているが、来年から部活動がどのようになっていくのが心配。今までの部活動は、学校で行っているからこそ、全ての生徒にスポーツに取り組む機会を与えられていた。今後、運動に取り組む生徒と運動から遠ざかってしまう生徒の二極化が進んでしまうのではないだろうか。スポーツクラブなど選択肢を広げたい。ただ聞いては聞いたが、どうしても心配が残る。体育の授業や行事などで運動を楽しむ機会を今以上に心がけていただき、スポーツが楽しい、スポーツに取り組みたいという生徒を増やしてほしい。また、その受け皿についても情報発信を続けてほしい。</p>	<p>部活動に対しては、子どもたちが自主的に活動できるように、自分たちで練習計画や活動時間などを立て、達成感を味わえることができるよう各顧問に助言していく。また9月からの動きについても、混乱が生じることはないよう生徒とともに進め、保護者にも学校行事やPTAの会等で丁寧に説明して、理解を求めていく。担任・学年・部活動顧問・保護者が連携を密にして、生徒の実態把握に努め、よりよい活動内容や指導方法の改善に取り組む。また、市の教員委員会が主催する吹奏楽やスポーツクラブ東海の主催する活動の情報も発信し、部活動に限らず、スポーツに取り組む心身を鍛える生徒を増やしたい。</p>	アンケート調査用紙
<p><b>地域協働</b> ・地域に開かれた学校づくりを進め、地域と共に生徒の健全育成を図る。</p>	<p>○保護者、地域、関係諸機関と情報共有・連携し、合意形成を図りながら、教育活動を展開する。</p>	<p>○アンケート結果から評価項目                  生徒:6                  教師:9, 10, 13, 28                  保護者:6, 7, 8, 9, 16, 17, 18, 19                  地域:1, 2, 3, 5, 9, 10</p>	<p>生徒・教師・保護者アンケートでは、地域協働やボランティアに関する項目で概ね昨年度と同等の肯定的な回答になっている。一方、地域アンケートでは、「生徒は地域の行事に出て、ボランティア活動をしている」「地域と保護者と学校とが連携して子どもの教育をしていると思う」など複数の項目で昨年度よりも肯定的な回答が減少している。これは、コロナの5類移行後、地域行事のすべてが元通り行われるようになったが、コロナ禍以前は当たり前に行われていた行事も、生徒にとってははじめてのことばかりで、意欲的に参加しているつもりでも、以前とは違うこと、さらに、中学校のテスト週間と重なり参加しづらくなったことなどが考えられる。</p>	<p>情報発信や授業参観・学校行事等、昨年度よりも肯定的な回答が高いものについては、今後も継続して取り組みたい。地域との関わりについて、今後部活動が縮小されていく中、生徒の活躍場面として地域に委ねられる場面も多い。地域からは、以前は地域行事の手伝いに生徒も教員も多数参加する理解が得られるよう情報発信に努めること、また、生徒の頑張りを学校でも褒められるような情報共有に努める必要がある。以前ほどの数ではないが実際にボランティアに参加した生徒からは、地域の方に褒められ、次回も行いたいと思ってくれている生徒がいる。コロナで絶たれたものを再構築できるように地域から依頼されるボランティアに意欲的に参加、取り組むことができるよう生徒に声かけ等、働きかけていきたい。年間行事についても早い段階で地域に示せるようにしていく。</p>	<p>生徒・教師・保護者と地域の方のアンケート結果で差があるのは、コロナ以前との比較があると思う。地域はコロナ以前をイメージするが、生徒も保護者も初めが多い。教員の働き方改革などからも以前のような動きができないことは分かる。であるならば、新たな伝統をつくっていくイメージで、働きかけていきたい。しかし、地域も、高齢化等の課題がある。少しずつ世代が若返る地区も出てきているが、共働き世代も多く以前のように集まるのが難しい、考え方も多様化している。ボランティアに参加した生徒が、多くの方に必要とされ、認められることで自己肯定感や有用感を高め、継続的に活動に参加できるようになるとよい。より効果的な方法を模索していきたい。</p>	<p>ホームページについて、今後もより多くの人に見ていただけるよう、日々の何気ない授業や生徒の活動の様子を毎日掲載するように努める。ボランティア活動については、今年度と同様にボランティアリーダーの生徒を中心に自主的・自発的な活動にしていく。また、地域でのボランティアについても、生徒がそれぞれの地域で活躍できるよう働きかけたい。生徒の自己有用感を感じさせるため、学校でも生徒の活躍を褒め、ホームページ等でもその様子や関わる方の言葉を紹介したりしていく。</p>	アンケート調査用紙